

建設作業員の「イハン」の意味に関する研究

東京大学 ○宋 虎斌*1

東京大学 國島正彦*2

By Hubin SONG and Masahiko KUNISHIMA

建設労働災害の発生原因として建設作業員の不安全行動ないし「イハン」がしばしば取り上げられる。しかし、既往の災害発生原因の分析は、建設作業員の主体性が考慮されていないために、より本質的と思われる文化的原因を特定することができなかった。本研究は、フィールドワーク（Fieldwork）という研究手法を用いて、建設作業員の日常生産活動のなかで現出する言動を観察し、建設作業員のイハンの意味、とりわけ規則イハンと作業員の追求している諸価値との関係について考察した。

【キーワード】建設労働安全、イハン、価値

1. はじめに

建設産業は、全産業の約1割の就業者を抱えているのに対し、平成14年現在における死亡者数と死傷者数は、それぞれ全産業の4割弱と2割強という高い比率を占めている。建設労働災害の発生原因として、建設作業員の法律違反が取り上げられることが多く、たとえば、厚生労働省が実施している労働災害原因要素の分析において、建設業における休業4日以上死傷者のうち、約7割の作業員が法律違反を行ったことが確認されている（表-1参照）。

表-1 法律違反行為による死傷者数の比率

年	休業4日以上 死傷者数 (人)	法律違反行為に よる死傷者数 (人)	比率 (%)
平成5年	46,603	32,860	70.5
平成8年	45,924	31,620	68.9
平成11年	31,188	21,818	70.0

（出所：安全衛生年鑑平成6年版、平成9年版および平成12年版により作成）

建設現場において有効な事故防止策を講ずるには、事故発生の実原因を明らかにする必要がある。最近の事故調査報告書には、作業員の不注意や安全意識の欠如などが事故発生の原因とするものが多いが、これらの原因を助長する組織の特性や作業員の心理状態

に対する分析は、現段階において充分とはいえない。本研究は、建設業における専門工事業者を対象とし、フィールドワークという研究手法を用いて、日常的な生産活動のなかで発生する様々な出来事に対する観察と記述を通して、作業員の価値観や集団の行動規範などについて詳細な分析を行い、建設作業員にとってのイハンの文化的意味を明らかにすることを目的とした。

2. 研究の概要

(1) 研究の手法

本研究では、建設作業員のイハンに関する文化的意味に接近するための研究手法としてフィールドワークを採用している。本研究におけるフィールドワークは、調査対象が活動を行っているフィールドにおいてデータ収集を主な目的として、研究者が調査対象と人間同士の関わりを持ちつつ行う活動を指している。

フィールドワークの理論的立場は、解釈的アプローチである。三沢は、解釈的アプローチの特徴を次のような三点に要約する。すなわち、研究者が行為者の社会的活動や他者との社会的相互作用に目を向け、行為者の見地に立って、行為者の持っている意味を解釈的記述によって取り出そうとする試みである¹⁾。但し、この解釈的記述は、当事者である作業員が社会的事実について行った一次的な解釈に基づいて、研究者が二次的、三次的解釈を行うものである²⁾。

*1 大学院新領域創成科学研究科 03-5841-6143

*2 大学院新領域創成科学研究科 03-5841-6101

(2) フィールドワークの概要

本研究において、筆頭著者は土木現場と建築現場一箇所ずつ選定し、インフォーマント（＝情報提供者）の実際の生産活動に参加し作業員と同じく肉体労働に従事しながら、データ収集を行った。

フィールドワークは、最初のフィールドにおいては平成14年10月15日から12月20日までの10週間、2つ目のフィールドにおいては平成15年1月14日から3月14日までの9週間にわたって、週に3-4日の頻度で行った。

調査対象となったのは、二つのフィールドにおける型枠大工および職の専門工事業者の現場作業員（計3社）計51人であり、そのうちキーインフォーマントは計23人である。

二つのフィールドの元請業者はいずれにおいても、日本の建設市場において規模や売上高が上位を占める会社であり、フィールドはそれぞれの元請会社のモデル現場かそれ以上のレベルを備えた建設現場であった。また、二つの現場はいずれにおいても、黒字が見込まれていた。

本研究において観察された作業員のイハン行為としては、安全帯の不使用、垂直方向での移動におけるイハン行為、脚立の使用におけるイハン行為および吊荷作業におけるイハン行為などの四種類である。

3. 調査の結果

(1) 規則遵守／イハンと安全

作業員たちは、安全関連の規則のイハンと安全との関係について数多くの見解を表したが、以下においてその幾つかの例を示す。

「ルールを守っていればやっぱりケガは少ないと思うし。」

「吊荷の下にいたからつぶされたんだと。そういうのはやっぱりルールを守らなかったことになりませんが、階段で躓いて転んでケガしたとかになると、ルールを守らなかったわけじゃないですよ。」

「ルールを守るためにケガすることもあると思います。安全帯つけろって言われるじゃないですか。

あれ[安全帯]も引っ掛かると思うし、安全につながるとは思わないです。」

建設作業員の規則イハンと彼らの身体的安全との関係に関する主張を総合してみると、規則が部分的に無用である、規則が安全確保に必要な以上のことを要求しているという無駄な部分がある、さらに規則の遵守が不安全な状態を惹き起こす逆効果があるなどの三点に集約される。

(2) 規則遵守／イハンと業績

建設作業員が規則にイハンする行為を行う理由の説明のなかで、規則の定める措置を採るのに時間が掛かったり作業性が悪くなるなど、規則の遵守が生産性を低下させ作業の遂行を妨害するというのが圧倒的に多かった。次の話者は、規則を遵守しなければならないと認めながらも、生産性が半分にまで減ってしまうことについて憂慮している。

「本当は[安全帯を]しなきゃならないんだよ。でも、一日分の仕事を二日掛けてやらなきゃならないから。」

生産性の低下は必然的に業績の低下を招くが、ある作業員グループの職長は、業績と規則の遵守との関係について次のように説明した。

河上[仮名、以下同]さんと川崎さんが仮休憩所で一服していたので、私[＝筆頭著者、以下同]は彼らのところに歩いていった。「安全はやっぱりやらなきゃならないと思うんですけど、…法律どおりね。[でも]教科書に書いたとおりやると仕事が進まないときがあるんですよ。本当はやらなきゃならないけど、全部やっちゃうと仕事が捗らないですもん。」河上さんの話に対して川崎さんは何も言わなかった。

私は、川崎さんに質問した。「安全はしっかりしているが仕事はあんまりできない人と、仕事はよくできるが安全はあんまりやらない人がいたら、だれに給料をもっとあげるんですか。」

「難しいなー、そう言われるとな。」川崎さんは、両手をポケットの中に入れたまま、つまさきで床を

こすっていた。

「うーん、究極的な質問ですね。…でも、ケガしないで[元請の職員に]何も言われなければ、やっぱ仕事ができる人でしょう。」河上さんが川崎さんの代わりに答えてくれた。

「仕事ができないとカネが入ってこないからな。」川崎さんは河上さんの答えに同感を示した。

すなわち、現実において規則遵守によって個人の業績が低くなる場合、やや難しい選択ではあるが、彼らのグループにおいては規則の遵守より業績を優先させることになるのである。

(3) 規則遵守／イハンと報酬

以下に示す会話は、建設作業員の報酬と規則遵守の間の対立関係を含蓄的に表している。

「(安全第一というのがありますよね。)

[でも]ノルマがあるからね。

(というのは、結局ノルマ第一ですよ。)

俺もそう思う。どっちに重さを? やっぱノルマになっちゃうんだよね、いま現状は。

(それはなぜですか。安全だって結構重要じゃないですか。ノルマも重要ですけど。)

安全ばかり言って、ノルマが上がらないと、今度はお金にならないし、ね。ノルマを重視し、次に安全が付いてくる感じ。で、最後に無事終ればいいやと。それじゃないかなー。みんなそう思うと思うよ。安全も大事だけど、俺たちの生活もあるんだよ。日雇い労働者だから。」

すなわち、この作業員は規則遵守により生産性が上がらず、その結果として彼らの報酬が確保できないことを示しているのである。

4. 規則遵守／イハンと価値体系

図-1において、円の相対的な位置関係および梯形と円との結合関係が、作業員の価値体系と規則の遵守／イハンの関係に関する認識を簡潔に再現している。

図-1から、規則遵守と作業員の追求している安全以外の諸価値との間に葛藤が生じているが分かる。す

なわち、安全関連の諸規則に従うと彼らが求めている報酬や社会的上昇移動や業績などの実現が妨げられると認識しているのである。

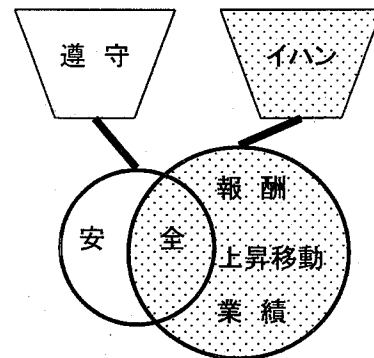


図-1 規則遵守／イハンと価値との関係

右の円のなかにある三つの価値のうち、報酬が最も重要な価値であることは一般的である。これを決定付けるのは、建設現場における労働からの報酬は建設作業員にとって最も重要な収入源であるという点である。

報酬と異なり、社会的上昇移動が全ての集団や全ての作業員にとって中心的な価値になることはない。たとえば、極端に人数が少ない集団では成員間の競争が生まれにくいので上昇移動は幾分意義を失うのである。また、身体的条件に大きく左右される建設現場での作業において、高齢の作業員にとって社会的上昇移動はそれほど重大な意義を持たない。逆に、若い人たちによって構成され一定人数以上の集団においては、社会的上昇移動をめぐる成員間に競争が生まれることがあり、このような状況において社会的上昇移動の重要度は増すのである。

また、業績は恐らく作業員たちが第一義的に求めている価値ではないが、報酬や社会的上昇移動に結びつく仲介的存在となるので、業績の達成を妨げられることは、彼らが報酬や社会的上昇移動などの二つの価値を追求することに対する妨害になりかねない。

建設作業員の規則遵守／イハンと価値体系との関係は、単にそれぞれの個人によって形成されるものではない。建設作業員のグループにおいて、集団の規範としての職長／親方への服従は、一般作業員が追求している報酬や社会的上昇移動に直結されているが、一般作業員は親方の期待ないし要求どおり作業を迅速に行うことにより、結果的に規則イハンをする場合がある。たとえば、現場内の比較的平坦なところで走る

ことを許容ないし促している親方のグループにおいて、ある作業員は、鉄筋や足場のプレスをよじ登るのは親方を「喜ばせてあげたい」ためだと認めたのである。

（「規則どおり昇降手段を使わないとき」楽しみたいという気持ちですか、それとも早くしたいということですか。）早くしたいという、早く仕事を終わらせたいという。早く終わらせて親方を喜ばせてあげたいというのがあるじゃないですか。」

5. おわりに

本研究は、フィールドワークという手法を採用し、作業員の日常的な作業環境において彼らの文化的意味に接することにより、建設作業員の安全関連の規則イハンと彼らの求めている諸価値との関係に関する認識を描き出した。

建設作業員にとって身体的安全は重要な価値ではあるが、いかなる場合においても他の全ての価値を凌駕する価値ではない。特に建設作業員のイハンは、労働の代価として収入を得る職場での生産活動において発生するので、報酬、社会的上昇移動や業績も同時に重要な価値として認識されている。安全関連の諸規則に従うことが安全以外の価値の追求を妨げると、彼らにとって内面化されている価値と内面化されていない安全関連の規則との葛藤が生じる。その一つの解決策として彼らは規則への同調を放棄し、安全以外の

価値の実現を求め、最終的にイハンに至る場合がある。そのなかで、集団の規範である一般作業員の職長／親方への服従は、イハンの源泉となる場合がある。

謝辞

本研究を進めるにあたり、御協力くださった全てのインフォーマントの方々に心から厚く御礼申し上げます。研究について適切な御助言を頂いた東京大学の堀田昌英助教授、小澤一雅助教授、堀井秀之教授、高知工科大学の渡邊法美助教授に、深く感謝いたします。

なお、本研究の一部は、厚生労働科学研究費補助金（課題番号：H14-労働-09）を受けて行ったものである。

【参考文献】

- 1) 三沢謙一 1988 規範的パラダイムと解釈的パラダイム—現代アメリカ社会学のパラダイム革新 新睦人・三沢謙一編 現代アメリカの社会学理論 恒星社厚生閣 pp. 335-355
- 2) Geertz, C. 1973, The interpretation of cultures: Selected essays. New York: Basic Books 吉田禎吾・柳川啓一・中牧弘允・板橋作美訳 1987 文化の解釈学□ 岩波書店 p.26

A Study of the Social Meanings of “Violation” of Japanese Construction Workers

By Hubin SONG and Masahiko KUNISHIMA

Many studies concerning construction safety and many accident reports have shown that unsafe behavior or “violation” committed by workers are the major causes of accidents at construction sites. Those efforts for uncovering accident causes, however, have not paid enough attention to social meanings of violation. It is necessary to consider social and organizational factors which may be the latent sources of accidents. According to the result of applying fieldwork method to two construction sites, this paper interprets social meanings of violation defined by construction workers, which, in particular, reveals conflicts between compliance with safety-related rules and values being pursuing by workers, such as reward, upper movement and job performance.